別添2

授業科目名	社会調査実習Ⅰ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	阪井裕一郎・佐野麻由子・堤　圭史郎	前期	実習	選択	2	2年

授業の概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルを修得する。

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
		社会的課題を公共性の観点から整理できる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
	DP4：表現力	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
	DP6：社会貢献力	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
技能	DP10：専門分野のスキル	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1〜30	第1回：オリエンテーション 第2回：社会調査の意義、方法、スケジューリング、実施上の留意事項の確認 第3回：調査企画（テーマの設定、調査対象／フィールドの検討） 第4回：調査テーマに関する文献講読 第5回：調査対象に関する文献やデータの収集 第6回：調査テーマに関する既存研究成果の整理 第7回：仮説の検討（仮説を構成する変数の検討） 第8回：仮説導出 第9回：調査票作成（質問項目・質問文作成） 第10回：調査票作成（調査票の全体構成を検討） 第11回：調査票作成（ワーディングをチェック） 第12回：サンプリングの種類と方法の確認 第13回：調査対象／フィールドの現地調査 第14回：調査対象／フィールドの関係者からのヒアリング 第15回：サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ） 第16回：サンプリング実施 第17回：調査対象者の名簿入力 第18回：調査実施プロセスの確認、プリテスト 第19回：プリテストの実施 第20回：プリテストの結果についての討論 第21回：調査票の再検討 第22回：調査票の確定、実査マニュアルの作成 第23回：実査の準備（郵送用封筒等の準備） 第24回：実査の準備（調査票の封入と郵送） 第25回：実査（問い合わせ対応） 第26回：実査（回収調査票のナンバリングとチェック） 第27回：実査（回収調査票のナンバリングとチェック） 第28回：エディティング準備 第29回：入力シートの作成 第30回：実査までのプロセスに対するレポート作成	テーマにより調査グループを編成 左の内容について概略を講義する 調査グループに分かれて作業 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う	調査原案の作成 調査企画 調査企画・仮説の作成 調査票作成 対象者選定 サンプリング、実査

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
実習	○	○	○	○	100
補足事項	調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。				

実務経験を生かした授業	行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。
テキスト・参考文献等	調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。 各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。
履修条件	①1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること ②2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること
学習相談・助言体制	授業内・前後での回答とオフィスアワーを中心とする。緊急の指示や助言が必要となる場合は電話やメールで対応する。
授業中の撮影	○

授業科目名	社会調査実習Ⅱ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	阪井裕一郎・佐野麻由子・堤　圭史郎	後期	実習	選択	2	2年
授業の概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルを修得する。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
		社会的課題を公共性の観点から整理できる。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
	DP4:表現力	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
	DP6:社会貢献力	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
技能	DP10:専門分野のスキル	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1〜30	第1回：調査プロセス、分析方法、報告書執筆についての確認 第2回：データエディティング 第3回：回収調査票の最終チェック 第4回：コーディング表の作成、入力作業のノウハウ 第5回：コーディング 第6回：データ入力作業 第7回：データ入力作業 第8回：データクリーニング 第9回：データセット確認	場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う	データセット作成
	第10回：データの読み取りと集計・分析ソフトの使い方に関するディスカッション 第11回：データ集計（単純集計） 第12回：データ分析（単純集計結果の分析） 第13回：データ集計（属性と他項目のクロス集計） 第14回：データ分析（属性と他項目のクロス集計結果の分析） 第15回：データ集計（主要項目間のクロス集計） 第16回：データ分析（主要項目間のクロス集計の分析） 第17回：データ分析から得られた知見のまとめ	各種の分析手法によりデータ分析を行う	データ分析
	第18回：中間発表会のプレゼンテーションの準備 第19回：中間発表会 第20回：中間発表会	データ分析結果の中間発表会。全員で分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める	報告書の構想を検討
	第21回：報告書の構成案作成、執筆分担決定 第22回：報告書原稿執筆（調査実施概要） 第23回：報告書原稿執筆（単純集計の図表作成と分析） 第24回：報告書原稿執筆（属性と他項目のクロス集計の図表作成と分析） 第25回：報告書原稿執筆（主要項目間のクロス集計の図表作成と分析） 第26回：仮説の検証と考察 第27回：報告書原稿執筆（仮説検証結果の説明） 第28回：報告書原稿に関する検討会	報告書を執筆する	報告書執筆
	第29回：検討会での意見を踏まえて報告書原稿修正 第30回：報告書原稿完成、公開（プレゼンテーション）	全員で報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する	調査の全過程を点検

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
実習	○	○	○	○	100
補足事項	調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。				

実務経験を生かした授業	行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。
テキスト・参考文献等	調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。 各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。
履修条件	①1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること ②2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること
学習相談・助言体制	授業内・前後での回答とオフィスアワーを中心とする。緊急の指示や助言が必要となる場合は電話やメールで対応する。
授業中の撮影	○

授業科目名	地域社会分析法C	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	美谷　薫	前期	講義	選択	2	3年

授業の概要	「地域社会」を分析するツールの１つとして、人文地理学で用いられる質的・量的分析の手法について取り上げ、受講生が実際に作業を行うことで、それらを身につけていくことを目的とします。また、その前段としての統計資料の収集方法や、分析結果の表現方法としての地図化の手法などについても紹介していきます。可能な範囲でGIS（地理情報システム）についても学習する機会を設けます。

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	人文地理学で活用される質的・量的な分析手法を身につけている。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力 DP4:表現力	さまざまな研究のテーマにふさわしい調査・分析手法を選択し、適切にデータを収集・分析して、その結果を的確に説明できる。
技能	DP10:専門分野のスキル	主題図を中心とした地図表現の基礎やGIS等の活用方法を習得し、それらを活用して自らの研究・分析結果をわかりやすく視覚化できる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	イントロダクション：講義内容の説明	テーマによって多少の相違は出ますが、講義の当初に分析の手法などの解説を行い、その後、提示した課題について作業を行い、結果を提出するという形で進めます。 ※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み替える場合があります。	適宜、講義内容等の復習を行ってください。 作業のボリュームが多く、講義時間中に作業が完了しないことも多いため、必要に応じて、課外の時間に各自で作業を進めてもらう形になります。
2	地域統計と地図表現（１）：さまざまな地図		
3	地域統計と地図表現（２）：地域統計の種類と収集方法		
4	地域統計と地図表現（３）：主題図の種類と表現方法		
5	質的データの収集方法（１）：アンケート調査と聞き取り調査		
6	質的データの収集方法（２）：土地利用調査の準備		
7	質的データの収集方法（３）：土地利用調査の実施		
8	質的データの収集方法（４）：土地利用調査のまとめ		
9	統計分析の手法（１）：特化係数		
10	統計分析の手法（２）：修正ウィーバー法		
11	統計分析の手法（３）：回帰分析と相関係数		
12	パソコンでの地図作成（１）：既存デジタル地図の加工		
13	パソコンでの地図作成（２）：階級区分図の作成		
14	パソコンでの地図作成（３）：分布図の作成		
15	まとめ		

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験	○	◎		◎	40
授業中の課題・作業レポート	○	◎		◎	50
授業態度・授業への参加度			◎		10
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用する予定です。				

実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の経験のある教員が、政策形成への応用を念頭に置き、学生の分析実習を含めながら、地域課題に関する量的・質的分析手法や結果の表現手法について解説します。
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の３点を挙げておきます。 野間晴雄ほか編　2012.『ジオ・パル NEO　地理学・地域調査便利帖』 海青社. 半澤誠司ほか編　2015.『地域分析ハンドブック　Excel による図表づくりの道具箱』 ナカニシヤ出版. 梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編 2007.『地域調査ことはじめ　あるく・みる・かく』 ナカニシヤ出版.
履修条件	履修条件は特にありませんが、実習的な位置づけの科目であり、作業量が相当多いので、その点はあらかじめご承知おきください。 半期でかなり幅広い内容を取り上げますので、特に統計分析について丁寧に学びたい方は、「データ処理とデータ解析Ⅰ・Ⅱ」などの科目も受講するようにしてください。 また、指示があった場合には、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。学期の中盤では、屋外での実習を行うことがありますので、その際には服装等に注意してください（事前に連絡します）。
学習相談・助言体制	講義内容などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。	授業中の撮影	○

授業科目名	地域計画論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	美　谷　　薫	後期	講義	選択	2	3年

授業の概要	現代日本の地方行政は、「総合計画」と呼ばれるさまざまな政策を盛り込んだ包括的なプランを頂点に、分野ごとの計画が策定され、これらの計画群をPDCAサイクルで実現に移していく、「計画行政」と呼ばれるしくみで進められることが一般的です。本講義では、地方自治体の計画行政のしくみについて概説するとともに、具体的な市町村などの計画を題材にして、現在の地方行政における主要な課題と政策や施策・事業を取り上げ、その現状について検討していきます。

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	地方自治体における計画行政のしくみや、そこで展開される政策や施策・事業についての知識を身につけている。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力 DP4:表現力	地域社会の現状と課題について自ら考え、それらの解決手法としての計画や政策のあり方について的確に説明できる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	イントロダクション：講義内容の説明	「地方自治体の総合計画の比較分析」（第5～9回）では、受講生各自の作業とその発表を中心に進めます。それ以外の回については、原則として、オーソドックスな講義形式で進めますが、各回の講義の後半部分では、作業課題に取り組む時間を設けたいと考えています。 ※受講生の関心や理解度に応じて、取り上げるテーマや順番を組み替える場合があります。	適宜、講義内容等の復習を行ってください。 また、学期中に作業レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。
2	計画行政のしくみ（1）：計画行政の役割と歴史		
3	計画行政のしくみ（2）：計画と政策		
4	計画行政のしくみ（3）：地方自治体の計画体系		
5	地方自治体の総合計画の比較分析 ・　地域課題の認識と目指すべき地域像 ・　主要コンセプトと施策体系 ・　重点施策と戦略プロジェクト ・　策定手法と進行管理		
6			
7			
8			
9			
10	計画行政と分野別政策（1）：福祉・保健分野		
11	計画行政と分野別政策（2）：生活環境・地域自治分野		
12	計画行政と分野別政策（3）：産業・経済分野		
13	計画行政と分野別政策（4）：都市基盤分野		
14	計画行政と分野別政策（5）：教育分野		
15	まとめ		

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験	◎	◎			40
作業レポート	◎	◎			20
授業中の作業課題・授業への参加度	◎	◎	○		40
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。				

実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の経験のある教員が、さまざまな市町村などの総合計画を題材に、学生の分析実習を含めながら、計画行政のしくみや政策形成の実態について解説します。
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜紹介しますが、講義全般に関連するものとして、以下のものを挙げておきます。 阿部　齊ほか　2005.『地方自治の現代用語 第2次改訂版』学陽書房. 金井利之　2010.『実践自治体行政学　自治基本条例・総合計画・行政改革・行政評価』第一法規. 柴田直子・松井　望編　2012.『地方自治論入門』ミネルヴァ書房. 増田　正ほか編 2011.『地域政策学事典』勁草書房.
履修条件	履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。特に、中盤では受講生による発表が主となりますので、積極的に作業に取り組むようにしてください。 また、予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。 なお、本講義では地方行政の具体的な「中身」に関する内容を中心としますので、地方行政の基本的なしくみなどの「制度」に関心のある方は、「地方自治論」などの講義も受講するようにしてください。
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。	授業中の撮影	

授業科目名	国際政治学	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	岡　本　雅　享	後期	講義	選択必修	2	1年

授業の概要	国際政治は国家と国家の駆け引きのように思われがちだが、この講義では一般の、特に世界システムの中で弱い立場に置かれた人々の視点から国際政治をみていく。定期的にBBC World Newsなどを見て、進行中の国際問題に関心を持ち、日本のメディアの報道との違い等から、多角的な視点を培う。

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	現代国際政治を理解する基礎をみにつける。
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	国際政治に深い関心をもち、主体的に学習できる。
技能	DP10:専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	平和学と人間の安全保障（講義の概要）	講義	配付資料、課題を読む
2	グローバリゼーションと相互依存	講義	同上
3	南北問題と構造的暴力	講義	同上
4	消極的平和と積極的平和	講義	同上
5	東西冷戦―米ソ二極対立の時代	講義	同上
6	冷戦の終結と国際関係の変容	講義	同上
7	グローバルガバナンス―ポスト冷戦後の世界会議	講義	同上
8	国際平和と人権―国連の活動とNGO	講義	同上
9	国際政治と難民問題	講義	同上
10	難民問題とUNHCR	講義	同上
11	イスラエル・パレスチナ問題	講義	同上
12	9.11後の世界と日本	講義	同上
13	戦後国際経済体制と債務国問題	講義	同上
14	経済のグローバリズムと政治	講義	同上
15	国際政治とNGOの役割	講義	同上

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
各回講義時の意見や考察	○	○	○	○	45
学期内レポート課題	○	○	○	○	40
期末レポート	○	○	○	○	15

補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。

実務経験を生かした授業	国連（ECOSOC）NGOのスタッフなどを務めた経験から、国連会議への参加経験などを含めながら、国際連合等におけるグローバルガバナンスについて解説する
テキスト・参考文献等	長有紀枝『入門人間の安全保障』中公新書
履修条件	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。
授業中の撮影	

授業科目名	多文化社会論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	岡　本　雅　享	前期	講義	選択必修	2	2年
授業の概要	前半は、同質だと思われがちな日本人内部の多様性について、民族概念の発生や文化、言語、宗教の観点から考え、後半は近代国家形成以降、日本に加わった琉球、アイヌ、在日コリアンと1980年代以降増加した難民、移民の観点から、日本の多民族社会化を考える。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる
技能	DP10：専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	多文化社会と多文化主義（講義の概要）	講義	配付資料、課題を読む
2	言語の多様性：ドラマ「国語元年」が問いかけるもの	講義	同上
3	日本人の民族宗教とは：ウタキと神社はどう違うか	講義	同上
4	列島文化の多様性―日本は閉鎖的な島国か？	講義	同上
5	われわれ意識は容易に変わる？：混合から単一民族論へ	講義	同上
6	戦後の企業社会が創り上げた同質意識：協調的で没個性	講義	同上
7	東北のアテルイ復権運動	講義	同上
8	南九州のクマソ復権運動	講義	同上
9	欧米の多文化主義	講義	同上
10	中国の多民族政策	講義	同上
11	アイヌ民族の承認と文化振興法	講義	同上
12	在日コリアン―4世、5世の外国人と invisible minority	講義	同上
13	難民と移民の到来と多文化共生の提唱	講義	同上
14	ゼノフォビアと歪んだ人種主義：ヘイトスピーチの拡散	講義	同上
15	多文化社会・日本：1人1人の個性が大切にされる社会へ	講義	同上

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
各回講義時の意見や考察	○	○	○	○	45
学期内レポート課題	○	○	○	○	20
期末レポート	○	○	○	○	35
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。				

実務経験を生かした授業	移住者・難民問題にかかわる全国組織のＮＧＯスタッフ、役員を務めた経験から、日本各地で暮らす在日外国人や難民、各自治体が行う多文化共生などを、現場の状況を含めながら解説する
テキスト・参考文献等	岡本雅享『民族の創出』岩波書店、『なぜ今、移民問題か』藤原書店、 『マイノリティの権利とは―日本における多文化社会の実現にむけて』解放出版社、他
履修条件	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。
授業中の撮影	

授業科目名	国際協力論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	佐　野　麻由子	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	国家間の格差、国内の格差が生じるメカニズムについての社会科学のアプローチを学んだ上で、国際協力に関わる官、民、市民の取り組み、今日の国際協力の可能性と課題を理解する。講義内では、国際協力に携わる実務者（JICA や NGO 等）を招聘し、受講生との対話を通して開発課題への対応策を検討する。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	開発社会学、開発経済学を中心とする社会科学の知識を身につけている。
思考・判断・表現	DP4:表現力	開発の課題を論理的に説明し、対応策（よりよい開発援助プロジェクト）を提案できる。
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	先進国、途上国双方の問題に深い関心をもち主体的に学習できる。
	DP6:社会貢献力	開発課題を解決する能力を高め、社会にはたらきかけることができる。
技能	DP10:専門分野のスキル	開発社会学、開発経済学についての先行研究、世界規模の格差のマクロデータ、国際協力に関する各種の資料を適切に収集できる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス、この授業のねらい、複合科目の意義、本授業の内容と構成 〈a〉発展とは何か 〈b〉実務者との対話のコーディネート、実務者との対話の指導方法としての意義	・講義 ・アクティブ・ラーニング ・講義後のリアクションペーパーの提出	・テキストを読む。 ・テキストの復習をする。 ・カリキュラム構成、教材作成・開発のための書籍、事例を収集する。
2	〈a〉国際協力とは誰が何のために何をすることなのか？		
3	〈a〉国際協力で対峙する課題：シャンパングラスのような世界 〈b〉国際協力に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材作成・開発		
4	〈a〉途上国はなぜ途上国なのか？不公正な貿易制		
5	〈a〉貧しい者・差別される者が生まれるのはなぜか		
6	〈a〉開発援助の正負の影響は何か		
7	〈a〉よりよい国際協力を実現させるために（1）：持続可能な開発		
8	〈a〉よりよい国際協力を実現させるために（2）：参加型開発		
9	〈a〉見えない資源の活用：社会関係資本の重要性		
10	〈a〉先進国・途上国を元気にするフェアトレード・地産地消		
11	〈a〉貧困層、企業の WinWin の関係？：BOP ビジネスの挑戦 〈b〉国際協力に関するさまざまな教材とその活用方法		
12	〈a〉地域を元気にする国際協力 〈b〉系統学習と課題解決学習：その特徴と学習効果		
13	〈a〉よりよい国際協力を考える～実務者との対話（1）：報告のまとめ方・発信の仕方 〈b〉教育方法としてのアクティブ・ラーニングの実践と指導計画		
14	〈a〉よりよい国際協力を考える～実務者との対話（2）：報告のまとめ方・対応策の検討 〈b〉アクティブ・ラーニングの活用方法と留意点		
15	まとめ 〈a〉国際協力の可能性と課題に関するプレゼンテーション 〈b〉国際協力に関する教材と指導法に関するプレゼンテーション		

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
授業内レポート	○	○	○	○	40
授業外レポート	○	○	○	○	60
補足事項	講義への参加度/リアクションペーパーの提出（40%）と最終試験（60%）で評価する。				

実務経験を生かした授業	国際協力現場での実務経験者（二国間援助機関、NGO、民間コンサルタント等の 実務経験者）を特別講師として招聘し、学生と講師との対話を交えた授業を行うことにより、よりよい国際協力のあり方を学ぶ。
テキスト・参考文献等	テキスト：佐藤・浜本・佐野・滝村編、2015、『開発社会学を学ぶための 60 冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店 参考書・参考資料等：佐野麻由子・田代英美　2017　「教育実践報告：公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践 2016」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 24 巻第 2 号. 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）
履修条件	国内外の社会的問題や国際協力に関心をもち、積極的に学ぶ姿勢があることを前提条件とする。
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。
授業中の撮影	

別添2

授業科目名	福祉行財政と福祉計画	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	村　山　浩一郎	前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	わが国では、特に1990年代以降、市町村を中心とした福祉サービスの提供システムが構築され、住民や民間事業者等の参加を得て市町村が策定する各種の「福祉計画」によって、サービスの基盤整備が進められている。そこで、この授業では、市町村を中心とする福祉行財政の仕組みと市町村等が策定する福祉計画の意義と実際について理解を深める。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方自治体（特に市町村）における福祉行財政の仕組みと、その実際について説明できる。 福祉計画の意義・目的、種類・内容、方法等について説明できる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	福祉行政財と福祉計画の課題と、今後のあり方について考察できる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授　業　内　容	事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション　－福祉行財政と福祉計画を学ぶ意義について－	
2	福祉行政とは　－福祉行政の定義とその範囲－	参考文献の第2章を読む
3	福祉行政の歴史と法制度　－戦後の福祉行政の展開と社会福祉法－	参考文献の第1章第2節と第2章を読む
4	福祉行政の実施体制（1）　－地方分権改革と福祉行政－	参考文献の第1章第2節と第2章を読む
5	福祉行政の実施体制（2）　－福祉行政の組織・機関と専門職－	参考文献の第4章を読む
6	福祉財政（1）　－福祉財政のしくみ－	参考文献の第3章を読む
7	福祉財政（2）　－福祉財政の動向－	参考文献の第3章を読む
8	福祉計画とは何か　－福祉計画の目的と意義－	参考文献の第5章を読む
9	福祉計画の実際（1）　－高齢者福祉における計画－	参考文献の第7章第2節を読む
10	福祉計画の実際（2）　－障害者福祉における計画－	参考文献の第7章第3節を読む
11	福祉計画の実際（3）　－児童福祉・少子化対策における計画－	参考文献の第7章第4節を読む
12	福祉計画の実際（4）　－地域福祉における計画－	参考文献の第7章第5節を読む
13	福祉計画の理論と技法（1）　－福祉計画の策定・実施・評価の過程と技法－	参考文献の第6章を読む
14	福祉計画の理論と技法（2）　－福祉計画における住民参加－	参考文献の第6章を読む
15	福祉行財政と福祉計画のこれから	

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
試験	◎	○			85
授業態度・授業への参加度	○				15

実務経験を生かした授業	複数の地方自治体で地域福祉計画等の策定委員会委員長を務めた経験がある教員が、その経験を活かして、福祉計画の実際について実践的な視点から講義を行う。
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しないが、以下を参考文献とする。その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。 社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座10　福祉行財政と福祉計画　第5版』，中央法規出版，2017年
履修条件	特になし
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等により随時質問を受け付ける。
授業中の撮影	

授業科目名	介護福祉論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	木　村　和　宣	後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の業務に関連しやすいと思われる介護福祉について広く学習する。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	介護福祉を取り巻く情勢、生活支援技術等の基礎的な知識について説明できる。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	介護過程展開、ケアマネジメントの課題分析、介護計画の立案を理解し説明することができる。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション　　高齢者介護を取り巻く情勢	講義	
2	介護の概念や目的・対象、介護予防	講義	テキストを読んでおくこと
3	介護と社会福祉、家政、看護、介護・医療との関係	講義	テキストを読んでおくこと
4	障害の特性の理解・社会参加の意義と支援方法	講義	テキストを読んでおくこと
5	援助関係の基本・介護関係維持のための技法	講義	テキストを読んでおくこと
6	介護過程①（介護過程の意義・目的、介護過程の実際）	講義	テキストを読んでおくこと
7	介護過程②（ケアマネジメント、チームアプローチ）	講義	テキストを読んでおくこと
8	生活支援技術の基本①（介護と自立支援、住環境）	講義	テキストを読んでおくこと
9	生活支援技術の基本②（食事・衣服の着脱・排泄・清潔の介護）	講義	テキストを読んでおくこと
10	生活支援技術の基本③（体位変換・移動の介護）	講義	テキストを読んでおくこと
11	生活支援技術の基本④（医療的対応が必要な利用者への介護）	講義	テキストを読んでおくこと
12	生活支援技術の基本⑤（介護家族への支援、福祉用具の活用、終末期ケア）	講義	テキストを読んでおくこと
13	障害の理解と対応①（視覚・聴覚・精神に障害のある人への理解と対応）	講義	テキストを読んでおくこと
14	障害の理解と対応②（認知症ケア）	講義	テキストを読んでおくこと
15	まとめ	講義	講義終了時に指示する

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	○	○	60
小テスト・授業内レポート		○	○		15
授業態度・授業への参加度	○	○	○	○	25

実務経験を生かした授業	介護現場経験のある教員が介護福祉における理論と現場での実際と介護方法の展開と認知症介護について指導する。
テキスト・参考文献等	・社会福祉学双書 2016『介護福祉論』全国社会福祉協議会　※2018年度版がでれば、そちらを使用予定
履修条件	「老人福祉論」と関連があるため、先に履修しておくことが望ましい。
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。(講義終了後にも随時質問に対応します。)
授業中の撮影	

授業科目名	障害者福祉論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	寺　島　正　博	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	激しく移り変わる障害者福祉の制度や政策、さらには障害者の置かれている実情について講義を行う。また、本講義は国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目であるため、それに対応した過去問題の分析と検討を行う。 実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて障害者福祉問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。					

学生の到達目標		
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	障害者の生活実態、障害者福祉制度の発展過程、障害者自立支援制度の概要、障害者福祉に関連する法令の概要、相談支援事業所の役割と実際、障害者福祉の組織、機関の役割、障害者福祉の専門職の役割と実際等を主に説明できる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション	講義	
2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態①	講義	教科書 P. 2－13 を熟読。
3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態②	講義	教科書 P. 14－28 を熟読。
4	障害者に関わる法体系①	講義	教科書 P. 30－43 を熟読。
5	障害者に関わる法体系②	講義	教科書 P. 44－56 を熟読。
6	障害者に関わる法体系③	講義	教科書 P. 57－68 を熟読。
7	障害者に関わる法体系④	講義	教科書 P. 69－89 を熟読。
8	障害者自立支援制度①	講義	教科書 P. 92－106 を熟読。
9	障害者自立支援制度②	講義	教科書 P. 107－119 を熟読。
10	障害者自立支援制度③	講義	教科書 P. 120－125 を熟読。
11	障害者自立支援制度④	講義	教科書 P. 126－130 を熟読。
12	組織・機関の役割	講義	教科書 P. 131－139 を熟読。
13	組織・機関の役割	講義	教科書 P. 140－145 を熟読。
14	まとめ（第 27 回国家試験）	講義	第 27 回の過去問題を解く。
15	まとめ（第 28 回国家試験）	講義	第 28 回の過去問題を解く。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験	◎	◎			70
授業態度・授業への参加度	○	◎			30

実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて障害福祉の現状等について説明する。
テキスト・参考文献等	『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第 6 版』中央法規，2019 年.
履修条件	特になし。
学習相談・助言体制	・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。
授業中の撮影	

授業科目名	児童福祉論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	奥　村　賢　一	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	現代社会における児童を取り巻く諸問題とその背景について理解を深めたうえで、児童福祉の観点から児童・家庭福祉に関する法制度やサービス等の専門的知識を活用した児童や家庭に対する具体的な支援方法を考察していく。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	児童や家庭に対する支援および児童・家庭福祉制度の内容を専門的知識に基づいて説明することができる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	児童や家庭に対する支援の目的や意義を論理的に思考することができるようになる。 児童・家庭福祉制度を活用した具体的な支援方法を述べることができる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス	・授業進行方法の説明 ・授業概要の説明と質疑応答	・講義終了時に指示
2	現代社会と子ども家庭（少子高齢社会と次世代育成支援、子どもの育ち・子育てのニーズ 他）	・テキストを中心に講義を行う。 ・講義では、パワーポイントを中心に解説や説明を行う。その他必要に応じて板書や資料等を配布していく。 ・単元によりロールプレイやグループ討議などを取り入れていく。 ・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していく。	・講義内容の復習 ・第3回講義内容の予習
3	子ども家庭福祉とは何か（子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念、子どもと家庭の権利保障 他）		・講義内容の復習 ・第4回講義内容の予習
4	子ども家庭福祉にかかわる法制度①（子ども家庭福祉の法体系、子ども家庭福祉の実施体制）		・講義内容の復習 ・第5回講義内容の予習
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度②（子ども家庭福祉の財政、子ども家庭福祉の専門職、苦情解決と権利擁護）		・講義内容の復習 ・第6回講義内容の予習
6	子ども家庭にかかわる福祉・保健①（母子保健、障害・難病のある子どもと家庭への支援、児童健全育成）		・講義内容の復習 ・第7回講義内容の予習
7	子ども家庭にかかわる福祉・保健②（保育、子育て支援、ひとり親家庭の福祉）		・講義内容の復習 ・第8回講義内容の予習
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健③（児童の社会的養護サービス）		・講義内容の復習 ・第9回講義内容の予習
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健④（非行児童・情緒障害児への支援）		・講義内容の復習 ・第10回講義内容の予習
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健⑤（児童虐待対策）		・講義内容の復習 ・第11回講義内容の予習
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健⑥（子どもと家庭にかかわる女性福祉）		・講義内容の復習 ・第12回講義内容の予習習
12	子ども家庭への援助活動（施設ケアと子ども家庭福祉援助活動、地域援助活動とネットワーク 他）		・講義内容の復習 ・第13回講義内容の予習
13	授業内容の振り返り（前半）	・第2回から第6回までの重要項目のおさらい。	・該当範囲の総復習
14	授業内容の振り返り（後半）	・第7回から第12回までの重要項目のおさらい	・該当範囲の総復習
15	まとめ	・講義内容のまとめとして小テストを実施。	・講義終了時に指示

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート		◎			60
授業態度・授業への参加度		○			40
補足事項	①授業中のメール・中途退室等は原則禁止。 ②まとめの小テストの得点率が60%以上を単位認定とする。				

実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーや児童指導員として勤務した経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。
テキスト・参考文献等	・社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第2版』、中央法規、2011年（2,200円税別）（※2019年3月までにテキストの改訂がされた場合、最新版を使用予定。）
履修条件	特になし
学習相談・助言体制	・授業内において、随時質問を受け付ける。 ・その他、オフィスアワーの時間帯を利用して相談や質問を受け付ける。
授業中の撮影	

授業科目名	家族福祉論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	奥　村　賢　一	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	現代社会における家族または家庭の役割や機能は複雑多様化しており、そのことに起因した社会問題が数多く存在する。本講義では、子どもを中心とした家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした家族支援の重要性について理解を深めていく。さらに、家族支援の意義や目的を踏まえ、より実践的な方法論を学ぶとともに、支援体制作りに向けた効果的な専門機関との連携及び社会資源の活用方法などについても学んでいく。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	家族福祉の概念や制度・施策について説明することができる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会における家族問題の現状と課題について、家族福祉の観点から理解している。 ソーシャルワークを基盤にした支援方法について理解している。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス	・講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。 ・テキストは、プリントを中心に講義を進める。 ・単元により、グループ討議などを取り入れていく。 ・単元により、ミニレポートの提出を求める。 ・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。	講義終了時に指示する
2	家族福祉の概念と歴史		授業内容（第2回）の復習
3	家族福祉の現状と課題①（少子化と子育て環境）		授業内容（第3回）の復習
4	家族福祉の現状と課題②（子どもの貧困）		授業内容（第4回）の復習
5	家族福祉の現状と課題③（身体的虐待・性的虐待）		授業内容（第5回）の復習
6	家族福祉の現状と課題④（ネグレクト・心理的虐待）		授業内容（第6回）の復習
7	家族福祉の現状と課題⑤（親子の愛着形成）		授業内容（第7回）の復習
8	家族福祉の現状と課題⑥（新型出生前診断）		授業内容（第8回）の復習
9	家族福祉の現状と課題⑤（障害児サービス）		授業内容（第9回）の復習
10	家族福祉の現状と課題⑥（終末期医療）		授業内容（第10回）の復習
11	家族福祉の現状と課題⑦（終末期医療）		授業内容（第11回）の復習
12	家族福祉の現状と課題⑧（超高齢社会における家族支援）		授業内容（第12回）の復習
13	家族福祉の現状と課題⑨（家族システムズ・アプローチⅠ）		授業内容（第13回）の復習
14	家族福祉の現状と課題⑩（家族システムズ・アプローチⅡ）		授業内容（第14回）の復習
15	小テスト	・講義内容のまとめとして小テストを実施。	第14回の授業終了時に指示する。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート	○	◎			70
授業態度・授業への参加度	○	○			30

補足事項

○ 授業内レポート 20%　※評価基準　A20点　B15点　C10点　D5点
○ 小テスト 50%　※講義回数の3分の2以上の出席で受験可
○ メール・中途退室等は原則禁止

実務経験を生かした授業	児童福祉および障害福祉領域でソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、子どもや家庭を取り巻く生活諸課題を家族福祉の観点から支援事例等を用いて具体的な解説を行う。
テキスト・参考文献等	・テキストは使用しない。 ・授業時に配布するプリント。
履修条件	特になし
学習相談・助言体制	・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。
授業中の撮影	

授業科目名	相談援助演習Ｂ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	村山浩一郎・奥村賢一・寺島正博・今村浩司	通年	演習	選択	2	３年

授業の概要	相談援助演習Ａの学びをふまえて、相談援助事例（虐待・家庭内暴力、低所得者・ホームレス、社会的排除・危機状態）や地域福祉の基盤整備と開発に関する事例を活用しながら包括的な援助技術について学ぶ。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、４グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から７回ずつ授業を受ける。

学生の到達目標

関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
技能	DP10:専門分野のスキル	相談援助に関する知識と技術を実践的に習得している。 専門的援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	本授業のオリエンテーション（全体授業）	配布資料にもとづく説明（全教員）	各教員より、事前・事後学習の課題を提示する。
2～8	虐待・家庭内暴力の相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（奥村賢一：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②児童福祉法、児童虐待防止法、DV防止法の学習
9～15	低所得者・ホームレスの相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（今村浩司：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法の学習。
16～22	社会的排除・危機状態にある相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（寺島正博：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②「相談援助の理論と方法」で学んだ実践アプローチの学習
23～29	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価などについて実技指導を行う。	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（村山浩一郎：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②「地域福祉論」で学んだコミュニティワークの方法の学習
30	全体のふりかえりとまとめ（全体授業）	各教員からのコメントなど（全教員）	各自、これまでの学びのふりかえりを行っておく

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
実技演習（提出物やプレゼンを含む）			○	◎	60
授業態度・授業への参加度			○	○	40
補足事項	各教員の評価の総計を成績評価とする。				

実務経験を生かした授業	学校、病院、福祉施設等でソーシャルワーカーとしての実務経験がある教員（3名）が、その経験を活かして、相談援助の実技指導を行う。
テキスト・参考文献等	必要な資料・レジュメは各授業で配布する。
履修条件	相談援助演習Ａを履修していることが望ましい。
学習相談・助言体制	４名の担当教員のうち、本学教員に関してはオフィスアワーや当該授業前後の時間、非常勤教員に関しては当該授業の前後の時間に相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。
授業中の撮影	

授業科目名	相談援助実習指導Ⅰ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡	通年	演習	選択	2	2年

授業の概要

相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①学生各自の各種保健医療福祉施設等における経験型実習（見学及び体験実習）、②外部講師の講話による福祉現場の実情と現場で求められる知識・実習姿勢の修得・理解、③相談援助実習の意義・方法の理解に取り組む。なお、本授業は、原則として小グループ単位（1グループ20名以下）で行う。

学生の到達目標

関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。
技能	DP10：専門分野のスキル	・相談援助実習の意義について説明できる。 ・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践できる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

1　オリエンテーション（相談援助実習・実習指導における個別・集団指導の意義、授業計画及び履修基準等の説明）と指定実習施設の概要、福祉ボランティアと実習の相違について
2　各種保健医療福祉施設の種類、現場見学及び体験学習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用経験を含めた経験型実習）先の探し方、施設でのマナー・姿勢と守秘義務、事前学習の方法等について
3　経験型実習（見学及び体験）の実習先決定までの流れと実習依頼の方法（電話のかけ方、留意点）について
4　経験型実習の個人票及び実習日誌、誓約書の書き方についてと説明と下書きの作成
5　①社会福祉協議会職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
6　①医療機関の職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
7　①障害者支援施設職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
8　①地域包括支援センター職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
9　経験型実習の個人票の添削指導（実習種別におけるグループ別指導）
10　①介護老人保健施設職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
11　①児童養護施設職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
12　①療育センター職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
13　①児童相談所職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク）
14　経験型実習に向けた実習種別グループ事前学習内容発表（実習先の法制度的な規定や一般的な動向、施設・機関の概要※組織、サービス・事業、職員体制、利用者等）
15　経験型実習に向けた実習前オリエンテーション（実習中の注意事項・緊急時の対応等）
16～22　各種の保健医療福祉施設等における各自の経験型学習（相談援助実習に向けた現場体験学習及び見学実習、実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）の取組み　［各自学生は、原則2年次の夏季休業期間終了までに1日6時間の5日間（30時間）にわたり、各種保健医療福祉施設（在宅福祉サービス事業所を含む同一施設）において見学及び体験実習に取り組む（この段階での実習先の開拓は原則的に自己開拓とする）。その主な目的は、①福祉サービス利用者や福祉従事者等との基本的なコミュニケーション力やマナーの修得、②体験・経験による理解を通じて自己覚知を図り、3年夏季の相談援助実習の目的意識の醸成、的確な実習計画書の作成（各自の実習目的や方法、達成課題等）につなげることなどである。］
23　オリエンテーション（今後の授業計画及び履修基準等の説明など）＜2年後期～＞
24　経験型実習の報告会（1グループ7名程度のグループに分かれ、経験型実習の報告を行う）
25　3年次の相談援助実習の実習先選定に向けたオリエンテーション
26　3年生の実習報告会に参加①（実習経験者の報告聴講と質疑応答）
27　3年生の実習報告会に参加②（実習経験者の報告聴講と質疑応答）
28　相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明①（実習先種別に応じたグループ別指導）
29　相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明②（実習先種別に応じたグループ別指導）
30　相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明③（実習先種別に応じたグループ別指導）

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
授業態度・授業への参加度			○	○	70
レポート等の提出物			○	○	30
補足事項	3回以上欠席した場合は単位を与えないことがある。				

実務経験を生かした授業	高齢者施設職員、障害者支援事業所職員、スクールソーシャルワーカーの経験がある教員が、分野別指導において高齢者分野、障害分野、児童分野を担当し、スーパービジョンを行う。また、各種社会福祉機関・施設から職員を講師として招き、講話および演習（グループワーク）を行う。		
テキスト・参考文献等	・「福岡県立大学社会福祉学科　経験型実習の手引き」 ・必要に応じてプリントなどを配布する。		
履修条件	社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。遅刻、欠席をしないこと。		
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。	授業中の撮影	

別添2

授業科目名	保育内容総論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊　勢　　慎	前期	演習	選択	2	2年

授業の概要	保育・幼児教育において、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解すると共に、保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について、背景となる専門領域、指針・要領の各章と関連させて理解を深める。また、乳児から幼児の発達や生活に即して、養護を含めつつ、主体的・対話的で深い学びが実現する過程（計画・実践・観察・記録・評価・改善）を踏まえて具体的、且つ多様な展開を想定して保育を構想し、実践的に学ぶ。その際、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史的変遷についても学ぶ。

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	幼稚園教育要領と保育所保育指針を中心に、保育内容について理解し、乳幼児に沿った保育内容の知識を取捨選択できる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育内容の歴史、意義をマクロな視点とミクロな視点から分析し、現代の保育現場で求められている育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育内容を考察できる。
	DP4：表現力	各年齢の保育内容を理解した上で、年齢・発達にあった保育実践の発表を行うことができる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	保育内容の基本的な視点について	プリントを用い講義・演習	・幼稚園教育要領、保育所保育指針を事前に熟読 ・疑問点をまとめる
2	保育内容とは何か・保育内容と遊び・保育内容と発達		
3	保育内容の歴史・変遷		
4	幼稚園・保育所の１日		
5	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較１		
6	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較２		
7	領域と保育内容１		
8	領域と保育内容２		
9	０歳児の保育内容と演習	保育内容を実践するための講義とグループに分かれ演習（保育実践映像資料視聴）	・実践する内容の準備
10	１歳児の保育内容と演習		
11	２歳児の保育内容と演習		
12	３歳児の保育内容と演習		
13	４歳児の保育内容と演習		
14	５歳児の保育内容と演習		
15	児童文化からのアプローチ		

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート	◎				40
宿題・授業外レポート	◎				40
受講者の発表（プレゼン）		◎			20

実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、保育内容について、現場の経験、実践を交え演習をする。
テキスト・参考文献等	テキスト：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領
履修条件	
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。
授業中の撮影	

授業科目名	子どもの保健Ⅱ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	田中美樹・吉川未桜	前期	演習	選択	1	2年
授業の概要	子どもの保健Ⅰで修得した学習を基礎にして、保育所・福祉現場で保健活動が実践できるよう、知識と技術を学習する。また、学習した内容を実践する。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	保育所、福祉現場で行われているさまざまな保健活動の実践について知識を学習し説明することができる。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	安全面に配慮し、子どもの発達に応じた適切な保健技術を主に人形を使って体験し、学習したことを論理的に表現できる。
技能	DP10:専門分野のスキル	子どもの体調不良や発育の変化に気づくために必要な保健スキルおよび養護のスキルを身に付ける。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション 保育における保健衛生 (担当:田中)	・講義:保育所・福祉現場における保健衛生の動向について概説する。 ・演習:講義内容に関する事例をもとにグループディスカッションする。	事前:ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見ておく。
2	保育者の自己管理(手洗い) (担当:吉川)	衛生的手洗いの実践および効果の確認を行う。	事後:日々の生活の中で衛生的手洗いを実践する。
3 4 5	乳幼児の養護 (担当:吉川)	・第3回目:小テスト(1、2回目の講義・演習内容) ・乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助(抱っこ、オムツ交換、更衣など)の講義およびモデル人形を使用し実践する。	事前:乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助ついて学習する。
6 7 8	乳幼児の身体発育と観察 子どもの身体計測と評価 子どもの生理機能の発達と測定方法 (担当:田中)	・第6回目:小テスト(3、4、5回目の講義・演習内容) ・子どもの身体発育と生理機能の測定と評価方法の講義およびモデル人形を使用し測定し、事例をもとに評価する。	事前:身体・生理機能測定方法について学習する。
9 10 11 12	乳幼児に起こりやすい事故と予防 心肺蘇生法 (担当:田中)	・第9回目:小テスト(6、7、8回目の講義・演習内容) ・子どもの事故の特徴と予防・対処方法の講義および事例検討を行い、予防方法や再発防止に等についてグループディスカッションを通して、子どもの命を守るための対策を探る。 ・事故発生時の早期対応のため、事例をもとに、誤嚥・窒息時の処置と心肺蘇生法についてモデル人形を使用し実践する。	事前:乳幼児に起こりやすい事故の事例(第8回目の講義時に提示)についてグループで検討しまとめる。 事後:心肺蘇生法について復習する。
13 14 15	乳幼児が罹りやすい病気と看護 (担当:田中)	・第13回目:小テスト(9、10、11、12回目の講義・演習内容) ・第15回目:小テスト(主に13、14回目の講義・演習内容および1～12回目の復習) ・子どもが罹患しやすい疾患とその症状や食物アレルギー・感染対策について、講義および事例をもとにグループディスカッションする。	事前:乳幼児が罹患しやすい疾患について子どもの保健Ⅰの資料で復習する。

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート	◎	◎			50
授業態度・授業への参加度	◎	○			10
受講者の発表(プレゼン)	◎	○			20
演習	◎	◎		◎	20

実務経験を生かした授業	小児看護・保健の実務経験がある教員が子どもの発達段階に応じた保健活動について指導する。
テキスト・参考文献等	参考文献: 講義・演習に必要な資料は毎回配布します。
履修条件	子どもの保健Ⅰ-1、Ⅰ-2を履修している。
学習相談・助言体制	質問などはレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。
授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・人間関係Ⅰ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	飯　田　大　輔	前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	領域「人間関係」のねらい・保育内容と活動の展開・援助の方法を学ぶ。					

学生の到達目標		
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	幼稚園・保育園における人的環境としての保育者の役割について記述できる。
思考・判断・表現	DP4:表現力	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。
技能	DP10:専門分野のスキル	保育現場に対して理解を深める。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション	講義	幼稚園教育要領、保育所保育指針
2	私たちにとっての人間関係とは	講義	
3	子どもをとりまく様々な環境	講義	
4	乳児の人とのかかわりと保育Ⅰ	講義	
5	乳児の人とのかかわりと保育Ⅱ	講義・演習	
6	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅰ	講義・演習	
7	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅱ	講義・演習	
8	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅲ	講義・演習	
9	3歳以上児の遊びと人間関係Ⅰ	講義・演習	
10	3歳以上児の遊びと人間関係Ⅱ	講義・演習	
11	3歳以上児の遊びと人間関係Ⅲ	講義・演習	
12	園生活の中での人間関係の育ち―気にかかる子どもへの援助	講義・演習	
13	園生活の中での人間関係の育ち―特別な支援を必要とする子どもへの援助	講義・演習	
14	人間関係の育ちをはぐくむ環境	講義・演習	
15	まとめ	講義・演習	

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験	○				40
小テスト・授業内レポート	◎				20
授業態度・授業への参加度				○	15
受講者の発表(プレゼン)		◎			15
演習		○			10

実務経験を生かした授業	保育現場における保育経験がある者が、その経験を生かして今日的な課題（ネグレクト、社会格差、多様性社会）への対応を指導する。
テキスト・参考文献等	テキスト田代和美・榎本眞実編著「演習 保育内容人間関係 ―基礎的事項の理解と指導法―」建帛社　20019年
履修条件	なし
学習相談・助言体制	レスポンスカードまたは、授業後に受け付け、回答する。
授業中の撮影	○

授業科目名	保育内容・環境Ⅰ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	中　藤　広　美	前期	演習	選択	1	2年
授業の概要	本講義では、領域「環境」の目的やねらいを理解することを求める。そのうえで、乳幼児を取り巻くさまざまな環境を把握し、子ども自らが主体的に環境にかかわる力を育成していくための方法論や実践例を紹介していく。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	最近の子どもたちの現状とそれを取り巻く環境の実態を理解し、説明できる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	子どもが身近な環境に主体的にかかわろうとする力の育成について考え、発達にそった保育内容を考え表現できる。
技能	DP10：専門分野のスキル	子どもたちの生きる力を培うための保育、自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと身近な環境とのかかわりを深める実践的な保育を自ら考えることができる

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション　保育内容と領域「環境」	講義	テキスト第1章を読む
2	子どもを取り巻く環境の変化と現状	講義、演習：個別ワーク	
3	身近な環境Ⅰ　調査	講義、演習：グループワーク	・授業外レポート①：「MAP身近な環境Ⅰ」を作成して今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成をA4版用紙1枚にまとめて提出
4 5	身近な環境Ⅰ　身近な環境のMAP作成、報告会	演習：グループワーク、報告会	
6 7	領域「環境」のねらいと内容の検討	講義演習：グループワーク	
8	環境とかかわる力の発達 「生活のなか」「遊びのなか」「関係のなか」	講義	
9 10 11 12	環境とかかわる力の発達 環境と関る遊び：実践、まとめ、報告会	演習：グループワーク、報告会 ＊9回、10回は2コマ連続授業　日程については授業内でお知らせします。	・授業外レポート②：「環境と関わる遊び」　作成詳細は授業外レポート①に準拠する。
13 14	身近な環境Ⅱ　調査：自然の変化に着目して 報告会：MAPⅠとの比較	講義、演習：グループワーク、報告会	
15	保育環境のあり方	講義	

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験	◎	◎			50
小テスト・授業内レポート	◎				10
宿題・授業外レポート	◎	◎		○	20
授業態度・授業への参加度	○			○	10
受講者の発表（プレゼン）		◎		◎	5
演習		◎		○	5

実務経験を生かした授業	保育士、幼稚園教諭の経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができるように事例などを紹介します。
テキスト・参考文献等	テキスト：柴崎正行・若月芳浩（編）『保育内容「環境」』、ミネルヴァ書房
履修条件	
学習相談・助言体制	質問は授業中・授業終了後、またはコメントカード等にて受け付けます。また、メールやオフィスアワーでも対応します。
授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・環境Ⅱ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	中　藤　広　美	後期	演習	選択	1	2年
授業の概要	子どもが好奇心や探求心を持ちやすい身近な環境について検討し、子どもが環境にかかわる力を育成していくための方法論や実践方法を学ぶ。演習内容では野外活動も取り入れ、身近な環境とのかかわりを重視した自然体験を通して、子どもが身近な環境への興味関心を深める保育展開に必要な基礎知識を学ぶ。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	身近な植物、生き物、自然現象の基礎的事柄（種名や特徴など）について関心を深め説明することができる。 数量、図形に関する認知の発達を知り、発達にそった遊びの提案ができる。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	子どもの身近な環境について、その内容や現状・問題点について把握し、発達にそった環境との関わり方について自分の意見を表現・主張できる。
技能	DP10:専門分野のスキル	自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に行うことができる。自然の基礎知識を活用した実践的野外保育を計画することができる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	授業ガイダンス　環境と子どもの好奇心や探求心	講義	
2	領域「環境」と保育の実際と実践上の留意点	講義	
3 4 5 6 7 8	子どもの遊び場環境の調査 事前指導、調査、まとめ、報告、事後指導	講義、学外授業、演習 ＊4回、5回は2コマ連続授業　日程については授業内でお知らせします。	授業外レポート①：報告内容を基に今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成を A4 版用紙　1枚にまとめて提出
9 10	子どもと身近な自然と生き物	講義、演習	レポート②：与えられたテーマを基に今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成を A4 版用紙　1枚にまとめて提出
11 12	子どもと文字・記号・数量・形	講義、演習	
13 14	子どもと身近な物	講義、演習：グループワーク	
15	主体的に環境にかかわる子ども　まとめ	講義	

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法 ＼ 到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験	◎	◎			50
小テスト・授業内レポート	◎				10
宿題・授業外レポート	◎	◎		○	20
授業態度・授業への参加度	○			○	10
受講者の発表（プレゼン）		◎		◎	5
演習		◎		○	5

実務経験を生かした授業	保育士、幼稚園教諭の経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができるように事例などを紹介します。
テキスト・参考文献等	テキスト：柴崎正行・若月芳浩（編）『保育内容「環境」』、ミネルヴァ書房
履修条件	
学習相談・助言体制	質問は授業中・授業終了後、またはコメントカード等にて受け付けます。また、メールやオフィスアワーでも対応します。
授業中の撮影	

授業科目名	乳児保育	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊　勢　　慎	前期	講義	選択	2	3年

授業の概要	保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。保育園は乳児が一日の大半を過ごす場となり、子育ての支援機関としての役割について学ぶ。 1．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 2．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3．3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 4．乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 5．乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	0～2歳児の発育・発達を理解し、そのための援助の仕方について理解を深める。
思考・判断・表現	DP4:表現力	乳児向けの保育実践の展開ができる。
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	乳児保育における保育者の専門性、役割について述べることができる。
技能	DP10:専門分野のスキル	乳幼児の生活に必要なものをイメージし、具体的に準備できる力を養う。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	乳児保育の理念と役割	講義	乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。
2	乳児保育の理念と歴史的変遷	講義	
3	乳児保育の役割と機能	講義	
4	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	講義	
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり	講義	
6	6か月未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
7	6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	
8	1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	
9	2歳児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	
10	指導計画の作成と観察・記録及び自己評価・保育の実践	講義・実践	
11	個々の発達を促す生活と遊びの環境・保育の実践	講義・実践	
12	保護者、保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携	講義・実践	
13	発表1	発表	発表の準備、練習、振り返りを行う。
14	発表2	発表	
15	まとめ・発表3	発表	

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート	◎		◎		40
宿題・授業外レポート		○		○	10
受講者の発表(プレゼン)		◎		◎	50

補足事項	実践、発表は、乳児向けのシアター系の作成を課します。
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、乳児保育について、現場の経験、実践を交え講義をする。
テキスト・参考文献等	テキスト：なし。 参考文献：『見る・考える・創りだす　乳児保育』CHS 子育て文化研究所、萌文書林、2002
履修条件	
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。　授業中の撮影：

授業科目名	社会福祉Ⅰ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	杉　野　寿　子	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、ソーシャルワーク、利用者の保護にかかわる仕組みや社会福祉の課題について取り上げる。講義形式だけでなく、学生自ら社会の問題に主体的に考えることができるよう、ディスカッションやグループ発表などの授業展開を行う。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、ソーシャルワークについて理解し説明することができる。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション：社会福祉とは、人のライフサイクルと福祉	ディスカッション	社会福祉とは何か考える
2	社会福祉を考える：現代社会と私たちの生活	講義、ディスカッション	社会の変化と少子高齢化について調べる
3	子ども家庭支援：子どもの貧困	講義、ディスカッション	子どもの貧困について調べる
4	子どもの権利と児童権利条約	講義・ディスカッション	児童権利条約を調べる
5	児童家庭福祉に関わる行政機関と法制度	講義	福祉行政について調べる
6	社会福祉サービス利用のしくみ、社会的養護、児童福祉施設	講義	児童福祉施設について調べる
7	社会保障制度のしくみ、低所得者の福祉（生活保護制度）	講義	生活保護制度を調べる
8	障がいのある人（子ども）の福祉、障がいのとらえ方	講義・DVD 視聴	ノーマライゼーション、インクルージョンを調べる
9	高齢者の福祉、在宅福祉	講義	介護保険制度を調べる
10	ソーシャルワークの意義と機能、保育とソーシャルワーク	講義	配布資料を読む
11	ソーシャルワークの理念、原則	講義、演習	配布資料を読む
12	ソーシャルワークの技術（1）	講義、演習	配布資料を読む
13	ソーシャルワークの技術（2）	講義、演習	配布資料を読む
14	保育ソーシャルワークの実際	講義、演習	配布資料を読む
15	世界の福祉：同じ地球人として福祉を考える	講義・ディスカッション	

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験	◎	◎			60
小テスト・授業内レポート		○			10
宿題・授業外レポート	◎	◎			20
授業態度・授業への参加度	○	◎			10
補足事項	毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。				

実務経験を生かした授業	児童福祉施設、障害者施設、高齢者施設での実務経験を生かし、社会福祉の理念、制度、相談援助等の基礎について、事例を挙げながら講義する。
テキスト・参考文献等	（参考書）直島正樹・原田俊加奈編「図解で学ぶ保育 社会福祉」萌文書林，2017年、2,100円（税抜） 倉石哲也・鶴宏史「保育ソーシャルワーク」ミネルヴァ書房、2019年，2,200円（税抜） 日本保育ソーシャルワーク学会編「改訂版保育ソーシャルワークの世界」2018年、2,000円（税抜） 小林徹・栗山宣夫編「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」みらい，2016年，2300円
履修条件	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。
授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉Ⅱ	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	杉　野　寿　子	後期	講義	選択	2	4年
授業の概要	国内外の社会福祉の動向、社会福祉と保育の関連、社会的養護の動向などを題材に挙げ、講義とディスカッションを中心に授業展開する。また、学生自身が関心のある領域における社会福祉について理解を深め、プレゼンテーションを行う。施設現場への見学も行う（日程については授業開始後に案内）。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会福祉の意義、国内外の社会福祉の動向、さまざまな社会的養護の状況、生活に困難をかかえる人への支援について理解し、述べることができる。
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自らの課題を見つけ、それについて調べ、論理的にまとめることができる。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション	講義	社会福祉Ⅰの復習
2	社会福祉の意義	講義	社会福祉Ⅰの復習
3	基本的人権の尊重を考える：ハンセン病の歴史から考える	講義、DVD視聴	ハンセン病について調べる
4	社会福祉と権利擁護	講義	権利擁護について調べる
5	持続可能な開発目標（SDGs）：地球上の誰一人として取り残さない	講義	SDGsを調べる
6	SDGsと海外の子どもたち	講義、討論	海外の子ども事情を調べる
7	SDGsと日本の子どもたち	講義、討論	子どもの権利を復習
8	社会的養護と保育ソーシャルワーク①	講義、演習	配布資料を読む
9	社会的養護と保育ソーシャルワーク②	講義、演習	配布資料を読む
10	福祉施設への見学と交流①	学外授業	訪問先について調べる
11	福祉施設への見学と交流②	学外授業	訪問先について調べる
12	福祉課題について考える（学生によるテーマ）①	学外授業	訪問施設研究
13	福祉課題について考える（学生によるテーマ）②	学外授業	訪問施設研究
14	学生による発表	発表	発表準備
15	まとめ		

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート	◎	◎			30
授業態度・授業への参加度	○	○			20
受講者の発表（プレゼン）	◎	◎			50

実務経験を生かした授業	国内外の福祉現場における実務経験を生かして、人々の多様な生活や価値観、共生社会について講義・演習を行う。
テキスト・参考文献等	授業時に紹介します。
履修条件	「社会福祉Ⅰ」「社会的養護」を受講済みのこと。
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。
授業中の撮影	

授業科目名	福祉心理学	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	西　原　尚　之	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	この授業では①福祉現場における心理職の役割、②心理臨床における社会福祉・ソーシャルワークの意義を学習します。私たちが生活する環境、つまり個人・家族・地域とその関係性のなかで起こる諸課題について、心理的支援、社会福祉的支援がどのように行われているのか理解してもらうことを目的に講義をします。とくに子ども虐待問題については現代の代表的な心理福祉学的課題と位置づけ詳しく講義します。					

学生の到達目標

知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	・福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ・虐待、認知症に関する支援方法について説明できる。
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	・社会福祉領域において心理職が担う役割を考察し、述べることができる。 ・福祉心理学的アセスメントと支援の有効性を考察し、述べることができる。

授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション	講義	
2	家族ライフサイクルと福祉的課題（1）	講義	自分の生育歴を整理しておく
3	家族ライフサイクルと福祉的課題（2）	講義	家族歴を整理しておく
4	子ども虐待・暴力問題の概要	講義	子ども虐待の文献を読んでおく
5	子ども虐待（1）発見・保護・社会的養護	講義	社会的養護の概要を調べておく
6	子ども虐待（2）トラウマへの対応・自立支援	講義	虐待とトラウマの関連を調べておく
7	ドメスティック・バイオレンスの概要	講義	ＤＶ防止法について調べておく
8	貧困問題（1）概要	講義	貧困に関する文献を読んでおく
9	貧困問題（2）貧困と不登校	講義	戦後の筑豊の歴史を調べておく
10	貧困問題（3）福祉心理学的支援の実際	講義	アウトリーチについて調べておく
11	高齢者（認知症）領域における福祉心理学	講義	認知症の概要を調べておく
12	障がい者領域における福祉心理学	講義	障害者基本法を読んでおく
13	福祉心理の支援ツール（1）ジェノグラム	講義	ジェノグラムの宿題をする
14	福祉心理の支援ツール（2）ソーシャルワークとエコマップ	講義	エコマップの宿題をする
15	まとめ	講義	

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連　○関連)

成績評価方法＼到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験	◎	◎			70
授業態度・授業への参加度	○	○			30

補足事項	・授業回数2／3(10回)以上で定期試験の受験資格 ・毎回受講カードに「質問・感想」を記入する。適切な質問・感想の記入があった場合毎回2点を与える ・定期試験は持ち込み不可
実務経験を生かした授業	児童相談所の児童心理司経験者（担当教員）が経験事例などをもとに福祉心理学的支援方法を解説する。
テキスト・参考文献等	・テキストは使用しません。レジュメや必要な資料は授業で配布します。 ・参考文献は授業で適宜紹介します。
履修条件	特になし
学習相談・助言体制	・質問や意見は「受講カード」で対応します。 ・授業後の質問、意見も歓迎します。
授業中の撮影	